（様式 1-2）

調査研究　中間報告書（一部改変）

令和３年１０月２５日作成

研究者（所属・氏名）：管理室　酒井　康行

研究課題名 （継　続）	光化学オキシダントおよび PM2.5 汚染の地域的・気象的要因の解明	コードNO. ⅡC-1
共同研究者 （担当分野）	国立環境研究所 地域環境研究センター：菅田誠治 地環研代表　群馬県衛生環境研究所：田子博 福井県衛生環境研究センター： ＜R２担当＞　　＜R３担当＞ 成 分 G　酒井康行（代表）　⇒　酒井康行（代表） モデル G　澤崎圭、岡恭子、玉村正憲　⇒　澤崎圭、玉村正憲 分 析 G　小山幸男、酒井康行、川村恭平⇒　川村恭平	
研 究 期 間	平成３１年度（令和元年度）から令和３年度まで（３年間） （本報告対象期間：　令和２年度まで）	
研 究 目 的 および 必要性	（共同研究班としての目的） これまでのⅡ型共同研究では、PM2.5 の環境基準超過要因を、高濃度事例解析、高時間分解能観測、各種モデル解析等を用いて解明を試みたが、その要因が完全に解明されたわけではない。 一方、光化学オキシダントは環境基準達成率が極めて低く、PM2.5 の二次生成にも寄与することが知られている。 そこで、本共同研究は、オキシダントの現状把握と前駆物質の光化学オキシダント生成影響に関する基礎的知見の取得、PM2.5 の発生源寄与解析や気象解析等による高濃度要因の解明、さらに、シミュレーションモデルを活用して、大気汚染物質の挙動の把握と高濃度の生成要因を明らかにすることを目的とし、グループ毎に分担して作業を行う。 （当センターの参加目的） 共同研究に主体的に参加し、研究班の目的を果たすとともに、研究班に参加して得られた最先端の知見や他自治体との情報共有を活用して、当所特電研究「福井県における越境大気汚染の解明に関する研究－PM2.5 の発生源に関する調査－」に寄与する。	
研究の特色	［独創性や新規性等］ ・本研究は、国環研と地環研とのⅡ型共同研究として、H13 から通算 6 期実施している大気汚染に関する研究を継承するもの ・他機関と共働することで、単独では困難な高度な分析、解析、シミュレーションモデルの運用が可能となり、これらを通じて、地環研の調査研究能力向上、研究者のスキルアップを図ることができ、ひいては各自治体における大気環境行政に活用することができる。	
期待される 成　果	１．県民生活や産業社会への波及効果 光化学オキシダントおよび PM2.5 に関する大気環境の保全	

	２．業務遂行のレベルアップへの寄与等 大気汚染物質のモデル解析の習得 PM2.5 中の有機化合物の分析技術の習得